

最近の海外 ILL 事情

— 中央図書館レファレンス係の依頼の取り組みを中心に —

伊藤 光郎*

1 はじめに

海外 ILL の依頼業務は、国内で入手できない資料への入手支援作業である。

拙稿は、中央図書館レファレンス係の主な ILL システムの依頼先や取り寄せ方法の紹介で、業務マニュアルには遠く及ばない。海外 ILL に関する業務マニュアルとしては、総合的に解説されるものとして①『海外 ILL ハンドブック』(石黒敦子 [ほか] 編著、東京：日本図書館協会、1994.11) や②『相互協力研究分科会報告』(東京：私立大学図書館協会東地区部会研究部相互協力研究分科会 [ほか] 編、1985-) があり、個々のシステム解説として、③国立情報学研究所 (以下 NII と略す) のグローバル ILL に関するマニュアルや、その外縁の解説を中心とする④『GIF (Global ILL Framework) ガイド』[OCLC] 版 (国立大学図書館協議会国際コミュニケーション特別委員会 [1] 編集) 等がある。また、国立国会図書館発行の広報誌『カレントアウェアネス』によって海外 ILL に関わる情報が多く取得できる。しかし、海外 ILL 業務は文字通りグローバルに多様に展開されており、進境著しい。①は、やや内容が古くなった感があり、②は、ほぼ2年に1度の刊行で、近刊の第9号 (2002年刊) と第10号 (2004年刊) が有用な資料となっているが、一層の最新情報を知りたい者には集約化された続刊が待たれる [2]。それらとの重複部分は多いが、未報告事例にも触れて当部署の

*いとう・てるお／図書館事務部総合サービス課

取り組みを圏域別に概要を記述することは、いくらかの情報の共有化につながるのではなかろうかと思う。

なお、これらの取り組みをレファレンス係が扱うことを知らない本学の利用者が、他部署や他大学を尋ねてしまい、その連絡が係に転送されるケースも散見されるため、利用案内の一助になればとも願う。

2 圏域別の主な依頼先と取り組み

以下は、最近では年間 150 件を越えるようになった海外 ILL 依頼業務の申し込み先の主なものである。なお、海外からの受付は、年間 10 数件に留まる [3]。

2.1 欧州圏

2.1.1 BLDSC (British Library Document Supply Centre)

BLDSC は British Library の一部門で、所蔵する資料が、逐次刊行物 25 万タイトル、書籍 300 万冊、レポート 460 万件、会議録 37 万件、学位論文 59 万件等を所蔵する世界的文献供給機関である。NACSIS-ILL は、1994 年 4 月から、その BLDSC とリンクするシステムが開始された。NACSIS-ILL 参加館は、すべて利用可能な環境にある。国内館依頼よりやや手数がかかるくらいの操作で複写や貸借の依頼が完了する。例えば貸借の依頼では、Web 上の BLPC (British Library Public Catalogue) を検索し、所蔵があれば、NACSIS-ILL 依頼画面に US-MARC 等からの書誌を貼り付け、CLN 項目に請求記号に該当する BLDSC の Shelf No. を記入のほか、私費・公費の別、依頼番号、入手希望者名等を記入し、「Order」ボタンのクリックで済む。BLDSC に所蔵しない資料は、英国内の協力図書館まで手配する方法 [4] があり、謝絶率は割合低い。今やすっかり定着し、国内で入手不可能な欧文資料は、まずこの機関への依頼を考える。

依頼から到着まで 1~2 週間程で届くものが多く、これは他の海外 ILL と比較すると迅速であり、支払いの預託金制 [5] の導入は簡便性があり、最近価格が上昇してきているもののそれでも安価である。また、同機関へ

e-mail の登録により、依頼処理等の情報が業務日ごとに送られて来るので、途中経過や「謝絶」等の情報を早めに知ることができる。

当部署で BLDSC への依頼件数は、1995 年当時は海外 ILL 全体の二分の一を占めていたが、最近は他のシステムへの参加や依頼方法の多様化で三分の一となった。しかし、依然として海外 ILL 依頼の中心的位置にある。

BLDSC の日本語版ホームページの PR 文章には「世界中の資料を提供…」と記載されているが、世界にはそれをはるかに上回る資料が刊行されており、欧文資料限定でも BLDSC だけに頼りきれない。

2.1.2 subito

subito は、ドイツ語圏で所蔵される資料を中心とするドキュメント・デリバリー・サービスを担う共同事業体である。自らも所蔵機関である BLDSC とは異なり、注文を受けた個々の図書館が提供の作業に当たる。1994 年に連邦教育科学省と州の文部大臣会議の図書館共同事業体の提案によって発足したプロジェクトで、1997 年から文献複写のみの試行的サービスが開始された。その後、2000 年 1 月より複写・貸借を含めたデリバリー活動を開始した。その時点で、共同事業体は 27 の参加館で組織され、うち 24 館がドイツ、2 館がオーストリア、1 館がスイスの図書館という構成であった。当部署では、2004 年 2 月に subito への利用者登録を行った。subito は論文の検索・注文用として雑誌目録 (ZDB = 約 100 万タイトル) と論文目録 (約 900 万件) があり、図書資料 7,000 万件の検索・注文には BVB (バイエルン図書館連盟目録)、GBV (共同図書館連盟目録)、SWB (南西ドイツ図書館連盟目録) など 7 連合体の提供する検索サービスとネットワークを結んでいる。文献依頼の方法は、subito のホームページ (<http://www.subito-doc.de>) の英語版から、取得している ID とパスワードを入力して検索画面を呼び出し、図書の場合には、検索の後所蔵館に現物の送付を依頼する。雑誌論文を複写依頼する場合には、表示された所蔵館の中から適当な機関を選び「part copy」の画面から論文書誌情報等を記入して申し込む。依頼を受けた図書館は、通常サービスは 72 時間以内に依頼を処理することになっている。最近の文献の提供手段の割合は、77%が電子メール、22.3%が郵送、

0.3%がFAXと伝えられる。電子ファイルで送付された資料はプリントアウトした後に消去しなければならない。

Search Serials **subito**

Freetext

ISSN

CODEN

Other:

SEARCH **HELP** **EXPERT** **TRACKING**

BOOKS **RESET** **LOGIN**

Index: **BROWSE**

© 2000 subito Association
E-Mail: info@subito-doc.de

図 1: subito の資料検索・依頼のフォーム

依頼が成立したものは約1ヵ月後にまとめて請求書が届く。料金の支払いは、銀行口座振込、小切手、クレジットカードが使用できるが、当部署では銀行口座振込を用いている [6]。現在の料金体系は、利用者グループが8つに分かれ、本学図書館はグループ8に属し、通常サービス郵送の場合、資料1件あたり、複写(郵便)8ユーロ、貸借(郵便)12ユーロが基本となっている。

今後は、電子的伝送サービスを中心とすることで著作権保護団体との協議に関わりあいながらも、他国の書誌ユーティリティ・サービス機関などとの協定を締結し業容拡大を図っており、更なる展開が注目される。なお、subitoでは、19世紀以前に出版された資料は、検索されてもsubito館での所蔵無しや「利用不可」が多い。その場合は、KVK (Karlsruher Virtueller Katalog)の検索から、Staatsbibliothek zu Berlin Preussischer Kulturbesitz [7]に、FAXやe-mailで申し込むことが多い。応じてもらえることがあるが、

送付されるまでの期間はまちまちで3ヶ月以上かかることもある。

2.1.3 ノルウェー国立図書館と BIBSYS


教員から北欧の図書の貸借依頼が持ち込まれたが、国内の所蔵館が無く、欧州圏をカバーする BLDSK にも所蔵が無かったため、ベルゲン大学図書館への貸借依頼を FAX で行ったところ、ノルウェー国立図書館への登録により申し込んでくださいとの指示の返信が来た。そこで指示通り登録し、明治大学図書館の登録番号と Authorization Code を取得した。このことによりノルウェー国立図書館主管の 350 万冊を収録する総合蔵書目録 (Norwegian Union Catalogue) や NOSP database [8] の検索によって約 400 館の国立・公立・大学図書館の資料への ILL が可能となった。総合蔵書目録の検索で、図書は SAMBOK (<http://www.nb.no/basser/sambok/english.html>) を、雑誌は、SAMPER (<http://www.nb.no/baser/samper/english.html>) にアクセスし、検索画面を呼び出す。

nb.no Søk i Nasjonalbiblioteket

Home Om Nasjonalbibliotek Fag Opplevelse Kontakt English

LIBRARY SERVICES FROM THE NATIONAL LIBRARY OF NORWAY

Norwegian union catalogue of monographs (Sambok)

[\[On Sambok\]](#) [\[How to use the search form\]](#) [\[Other union catalogues\]](#) [\[Simple search\]](#) [\[Order Archive\]](#)  (Norwegian version)

Search: Norwegian union catalogue of monographs

and	Person	
and	Words from title	
and	Dewey number	
and	ISBN	

Narrow search by: Language: Year of publication: from to

Submit Query Reset Maximum number of bibliographic records per page: 25

図 2: SAMBOK の検索画面

ここまでは、ほとんど国内図書館の OPAC と変わらない。しかし、ノルウェー語には、英語表記では対応できない文字もあるため該当資料の ISBN

や ISSN を調査し、それを検索値とするのが資料特定には簡単である。書誌がヒットしたら、所蔵館は Location Codes をクリックすると所蔵館一覧表が現れ、各図書館の Library Code や請求記号の記載がある。Library Code のクリックで該当館のレンディング・ポリシーが表示される。登録館の中には、欧州圏のみ貸出可等の制約を設けるところもある。ところで、一覧表では、「Catalogue」欄に BIBSYS という記載が目につく。

BIBSYS は、ノルウェー国内の約 70 の図書館 (国立図書館・大学図書館・研究図書館) で構成されるオンライン共同目録の組織であり、同時に ILL を可能とするネットワーク・システムである。ノルウェー総合蔵書目録は BIBSYS とリンクされている。SAMBOK で検索し、BIBSYS の所蔵館を特定し、依頼画面から所定事項を記入し「Order」ボタンをクリックすると、翌日、依頼が受付されたことを知らせる e-mail が BIBSYS 管理局から届く。これで、希望した資料が受付されたことを確認する。それ以外の情報の記載がないため、その後、取り扱いがどの段階なのか、謝絶されたのか、発送されたのか途中経過がつかめないでいると、2 週間ほどして依頼資料が届いた。もっか、資料貸借を 3 件扱ったが、登録の際「依頼館によって料金請求があるので、それに従うこと」という規則が規約に盛り込まれていたにもかかわらず 3 件とも送付料金等を請求されたことがない。この点は日本の国立国会図書館に似ている。返送は、当然のことながら、書留郵便で Air Mail 便となり応分の返送料がかかる。これまでは、ノルウェー国内刊行資料に限定して依頼を行ってきたが、所蔵が確認されれば EU 圏の出版物で他では入手しにくい資料の ILL 依頼が可能だろうと期待される。

2.2 北米圏

2.2.1 グローバル ILL 「日米」

NACSIS-ILL システムと OCLC (Online Computer Library Center, Inc.) の海外 ILL システムとの接続 (ILL システム間リンク) を通じた国際的な ILL は、グローバル ILL 「日米」と呼ばれている。日米大学図書館間の協議、及び NII と OCLC との協議によりシステム間リンクを締結し、2002 年 4 月か

ら文献複写が、2003年8月から貸借サービスが開始された。NACSIS-ILL参加館はグローバルILLに参加することによって、NACSIS-ILLを使用したOCLCメンバー館(北米のグローバルILL参加館)への文献依頼が可能となり、逆に北米のグローバルILL参加館からの依頼を受け付けることになる。2005年11月時点でのグローバルILL「日米」の参加館数は、日本側123館、北米側48館であるが、NACSIS-ILLを通じた北米側の目録検索はできない。当部署では複写・貸借の依頼は、①外部データベースのFirstSearchのWorld Catで書誌検索をして、その全所蔵館を見た後、②GIFが記載する参加館一覧とつき合わせ、依頼する館を決め、③該当の参加館のOPACで改めて所蔵や請求記号を確認する。④ここに至ってグローバルILLシステムの依頼レコードを作成し、書誌事項の他に、送付方法(速達、書留などの別)、上限金額、支払い方法等を所定欄に記入する。複写依頼にはこのほか、著作権応諾事項と論文等の書誌事項などの記入が必要となる。

複写依頼詳細表示 (ISO対応サーバ)

SAVE ORDER

準備中

ACCT: pr TYPE:電子複写 OMLNM:明大 OMLID:FA006678
 SPVIA:ADMAL ONO:2006 PRMT:

BIBID: HA0960822

BIBNT: Tourism recreation research

STDNO: ISSN=02508281, LOCN=78914670

VLNO: 16(t) PAGE:85-86 YEAR:1991

ARTCL: Cedrens, R. Small scale tourism in Sweden

HMLID:	OCLC	HMLNM/OCLC	LOC:	VOL:	CLN:	RGTN:	HMLISO:
HMLID:		HMLNM:	LOC:	VOL:	CLN:	RGTN:	HMLISO:
HMLID:		HMLNM:	LOC:	VOL:	CLN:	RGTN:	HMLISO:
HMLID:		HMLNM:	LOC:	VOL:	CLN:	RGTN:	HMLISO:
HMLID:		HMLNM:	LOC:	VOL:	CLN:	RGTN:	HMLISO:

BVRFY: HVRFY:NACSIS-GAT

CLNT: ●●●● CLNTP:●●●

ODATE: 20051220

CMMNT: ISO-CC=US:CCG / MAX-COST=USD40 / PAYMENT=IFM

OSTAF: Teruo ITO, ILL section, TEL=+81-03-3296-4252 FAX=+81-03-3296-4411 E-MAIL=ill@lib.meiji.ac.jp

OADRS: ILL section, Soego-Sabisuka, Meiji University Library / 1-1 Kanda Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8301, Japan

図 3: グローバル ILL 「日米」 の複写依頼画面

料金決済(請求・支払)は、OCLCのIFM(ILL Free Management)システムのデータとNIIのILL料金集計データに基づき、日本側参加館とOCLCの日本代理店である紀伊国屋書店との間で行われる。例えば北米館への依

頼の場合、該当資料到着後、約1ヶ月後に紀伊国屋書店が作成した請求書が届くので、それに基づいて支払う [9]。逆に北米側からの受付分は、紀伊国屋書店に請求書を送付する。

そのような態勢で開始された当システムは、2005年6月のOCLC側のシステム全体のリプレースをきっかけにOCLC側のISO-ILLサーバで障害が発生しダウンした。システム停止状態は長引き、当部署でも依頼したいが出来ない、依頼された資料を送付したのにILLデータが届いたことにならないという事態を招いた。復旧したのは4ヵ月後の11月中旬である。この間、参加館から管理機関であるNIIへ苦情が殺到したのだろうと思ったが、大きな混乱にはいたらなかったようだ [10]。

2.2.2 VDX Racer (Rapid Access to Collections by Electronic Requesting)

カナダのオンタリオ州の20大学による Ontario Council of University Libraries (OCUL) が母体となる ILL システムで、Fretwell-Downing 社の VDX (Virtual Document Exchange) というソフトウェアがシステムの仕様となる。これらの中には本学協定校のヨーク大学も含まれている。カナダには、カナダ国立図書館を中心とする総合目録 AMICUS (<http://amicus.collectionscanada.ca/aaweb/aalogine.htm>) があり、国内 1,300 館の 2,800 万タイトルを収録する。そのカナダはケベック州を中心にフランス語文化圏があり、AMICUS では多数のフランス語資料がヒットする。利用者からの文献取り寄せ希望を契機に AMICUS の検索を進めたところ、書誌表示の右上に「Location」ボタンが表示されるものがあり、それをクリックすると所蔵館が表示され、更に所蔵館シンボルをクリックすると、レンディング・ポリシーが現れ、その中に OCUL VDX や VDX Racer という記載が目についた。それがある地域群の ILL ネットワークであると知り、機関登録を行い ID に相当する「Location Symbol」を取得した。取り寄せ依頼には所定 URL に記入フォームがあり、必要事項を記入し、「submit」ボタンのクリックで注文が済む。OCUL の加盟館ではないためログイン、パスワードでシステムに入り、資料検索による依頼とはならない。記載が必要な事項は AMICUS や個々の大学図書館の OPAC 検索を必要とする。

Item Details

* Lending Library:

* Call Number: lending library's call number

* Title:

Edition:

Author(s) of Book/Conf/Thesis:

Date of Publication:

Publisher:

Place of Publication:

Series Title and Number:

ISSN:

ISBN:

Verification Source:

COMPLETE THIS SECTION FOR AN ARTICLE FROM A JOURNAL OR BOOK:

Title of Article/Chapter:

図 4: RACER の依頼フォーム

これまでの依頼は文献複写の案件で、料金や資料到着までの期間は依頼大学によってまちまちだが、ヨーク大学の場合、依頼から到着まで 10 日間と “Rapid Access” をうかがわせ、1 論文あたりの料金は 7.5US\$ であった。

フランスでは国立図書館の Bibliothèque nationale de France や個々の大学などが ILL を行っているが、一般的に迅速性に欠ける印象がある。一方、グローバル ILL 「日米」の北米側の参加館がまだ数十館に留まっており、FirstSearch の WorldCat で検索した所蔵館がグローバル ILL 「日米」未参加館であっても OCUL 加盟館であれば依頼が可能となる。従って、このような補完機能も当ネットワーク・システムが持っている。

2.3 東アジア圏

2.3.1 グローバル ILL 「日韓」

NACSIS-ILL の一システムとして、日韓 ILL/DD 暫定サービスがある。当サービスは 2004 年 11 月に暫定版として開始された。暫定と呼ぶには理由がある。もっか、複写の利用ができるが貸借はできない。資料検索は、

韓国教育學術情報院 (KERIS) の書誌ユーティリティを指定した検索から入り、特定資料の所蔵館がヒットしたところで、所蔵館のコードを一覧から探し、複写箇所を記入して依頼する。論文標題や著者はハングルで記入となるが、あらかじめ被調査資料の ISBN や ISSN を調査しておく方法をよく使用する。雑誌の場合、所蔵館が判明しても、所蔵する巻号の表示が無い場合、別作業として所蔵館のホームページを探して OPAC 検索を行い、該当巻号を見つける必要がある。しかし、日本国内同様、どこの大学図書館でもホームページや OPAC の English 版が用意されているわけではないため、ハングルに精通していないと OPAC に行き着くまで難儀な作業となる。だが、ここは中継機関となる KERIS、あるいは、韓国内の大学図書館ネットワークによる調整機能が働いてくれている様子で、たとえば、当方で、Korea University Library で所蔵確認ができたということで依頼をかけたとしても、現物は Yonsei University Central Library から届いたというような場合がたびたびある。

複写依頼詳細表示 (ISO 対応サーバ)

SAVE ORDER

準備中

OMLNM: 明大 OMLID: FA006678

ACCT: pr TYPE: 電子複写 SPVIA: AIRMAIL ONO: 2005 PRMT:

BIBID: KERIS0002

BIBNT: 연세 경영 연구 연세대학교 경영연구소 -- 제81권 (994)-

STDNO: ISBN:00864487

VLNO: 64 PAGE: 141-167 YEAR: 1997.10

ARTCL: 한기수 / 기업공인의 교육과정 교육내용 및 교육방법에 관한 연구

HMLID: FA022459 HMLNM: KERIS LOC: VOL: CLN: RGTN: HMLISO:

HMLID: HMLNM: LOC: VOL: CLN: RGTN: HMLISO:

HMLID: HMLNM: LOC: VOL: CLN: RGTN: HMLISO:

HMLID: HMLNM: LOC: VOL: CLN: RGTN: HMLISO:

HMLID: HMLNM: LOC: VOL: CLN: RGTN: HMLISO:

BVRFY: HVRFY: NACISB-CAT

CLNT: ●●●● CLNTP: ●●●

ODATE: 20051220

COMMNT: YONSEI UNIVERSITY WONJU CAMPUS (242009)

OSTAF: Teruo ITO, ILL section, TEL:+81-03-3296-4282 FAX:+81-03-3296-4411 E-MAIL:ill@lib.meiji.ac.jp

OADRS: ILL section, Sojo-Sabisaki, Meiji University Library / 1-1 Kanda Suruzadai, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8301, Japan

図 5: グローバル ILL 「日韓」の複写依頼画面

料金は、基本料 ¥100、白黒複写が 1 枚 ¥10 で、これに郵送料がページ数(重量)に応じて加算される。EMS (国際スピード郵便) を指定すると、3 日で届く。Air Mail の普通郵便でも数日で届くため、国内の NACIS-ILL と変わらないほどの迅速性がある。改めて韓国と日本が近いことを実感す

る。複写料金は、基本料があるとはいえ、1枚 ¥10 は低価格であり、相殺制度で処理される簡便性はありがたい。複写依頼に注力していたところ、逆に複写受付 (韓国の大学図書館からの複写依頼) が生じた。係では、さっそく対応したが、本学図書館が受付した場合 1枚 ¥40 であるので、これで相殺という不均衡性が気になった [11]。

2.3.2 中国国家図書館 (旧北京図書館) と上海図書館

中国国家図書館は、蔵書数 2,200 万冊 (件)、建築面積 140,000 平方メートルというアジアで最大規模の図書館である。同館との ILL は、『相互協力分科会研究報告』第 9 号で紹介されたこと、その後、国立国会図書館関西館のアジア情報室が、ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/>) 上で「海外の図書館の複写サービス」として、中国国家図書館と韓国国立中央図書館の複写サービスを案内したことによって、ILL 依頼先館としてよく知られるようになった。中国国家図書館に対しては、航空便、FAX、e-mail で、中国語、日本語、英語いずれの言語を使用しても申し込むことができるとして、申込書式、料金表、支払い方法、資料検索のための OPAC の URL なども載せている。この申し込みは、関西館アジア情報室が代行するのではなく、依頼館と受付館との間で行うことになっている。実際に FAX で文献複写を申し込むと、一週間後、複写物と、請求書が届いた。迅速性がある。これに対する料金は、10 ページ以内のため 12US\$ で、銀行口座宛送金では 6US\$ の仲介手数料、及び 5US\$ の口座登記料、それに ¥1,000 の郵便局の手数料が加わり、合計 ¥3,400 となった。

同様に ILL に応じてくれる機関として、上海図書館上海科学技術情報研究所がある (<http://www.library.sh.cn/japanese/>)。ここは、中国の図書館の OPAC 検索中に見つけたものである。ホームページには、日本語で「文献サービス委託書」という書式が載っており、氏名、住所、郵便番号、電話番号、e-mail、FAX、注文文献の記入欄がある。料金は中国国家図書館とほぼ同じと見られる。ある時、少々急いでいたこともあり e-mail で類似書式を作成し文献複写を依頼した。e-mail では、ところどころバケ文字となったが、ISSN が判明していたので書き添える。すると 3 日後に、返信

メールがあった。それは簡単な英文メッセージで、支払いは 10US\$ で指定した銀行口座に振り込むよう指示があり、PDF ファイルが付されていた。PDF を開くと当方依頼の論文 1 本 (A4 版 5 ページ) であった。口座宛送金は手数料等が加わり、¥3,200 となったが、その迅速提供ぶりに驚いた。

あとで判明したことだが、その上海図書館は、1952 年に創立された公共図書館である。その後、1995 年に市立上海科学技術情報研究所と合併し、1996 年に市内の淮海中路に地上 25 階、延べ床面積 83,000 平方メートルの新館を開館した。1,300 万冊 (件) の書籍、新聞、機関誌、欧米の稀覓本、家系図、手紙、碑文などを所蔵し、座席数 3,000 席、館員 900 人余り、中国国家図書館に次いで 2 番目の規模は、日本の国立国会図書館東京本館の書庫棟と事務棟を合わせた総面積 73,340 平方メートルや蔵書数 740 万冊をしのいでいる。また、中国国内の図書館で初めて蔵書管理にコンピュータを導入し、インターネットやメールのチェックができるオンライン・サービスを開始しているほか、知識ナビゲーション合同ネットワークサイトと称する市内図書館の蔵書と専門家の情報を利用し、利用者にネットワーク上でレファレンスサービスを提供している。日本からの訪問者も多く、日本の大学図書館や学協会との交流も深めている [12]。

NII のホームページの文書中に、書誌ユーティリティの連携候補を匂わせる中国の大学図書館ネットワーク (CALIS) とのリンク図の掲載がある。連携されれば中国語資料へのアクセスが簡便となるであろうから、実現されることを望みたい。

ところで、雑誌論文の複写の取り扱い機関として、熊本市に本部を置く日本中国学術交流機構があるが、当部署では複写依頼からは遠い存在となっている [13]。

3 料金と取り寄せ期間のこと

海外 ILL の特徴として一般的に高額であり、時間がかかることが指摘される。そのことを以下に触れる。

3.1 料金のこと

送付資料の郵便料を除外して、複写 (10 ページ程度) を低額な順にランク付けすると、ほぼ下表のように位置づけられる。

ランク	支払い方法	主な取り扱い機関
A	相殺制	グローバル ILL 「日韓」
B	Voucher [14] または IRC [15]	Voucher または IRC の支払いを取り扱う機関
B	預託金制	BLDSC
C	IFM の利用	グローバル ILL 「日米」
C	振込 (口座宛または住所宛送金)	subito など
D	送金小切手	現金払い限定機関で振込が不都合な場合

これらは、1 枚当たりの複写料金が物価水準と連動という背景もあるが、請求額よりも支払い方法の違いによる金融機関等への手数料の発生に大きく影響されている。指定された通貨の現金または小切手送付は高額とならざるを得ない。送金小切手の発行には、銀行で約 ¥3,000 の手数料がかかる。

ILL の現金にかわる支払い方法として、Voucher と IRC がある。それらの支払いを取り扱う個々の図書館との間で利用されている。両方とも結果的に安価提供となるため、多くの機関で取り入れて欲しい支払い方法である。

3.2 取り寄せ期間のこと

郵便事情に左右される課題でもある。国や図書館によって一律ではないが、東アジア圏の機関からは1週間程度で届くことが多い。迅速提供を方針とする BLDSC や subito では、1~2週間で届くことが多いが、更に長期間を要すこともしばしば生じる。全体的にはこれらが迅速性に優れる機関で、2~3週間のごく普通となり、FAX や手紙での依頼では1~2ヶ月かかることが普通である。もし、自館に導入した e-journal に該当論文が収録されていれば、すぐに入手できることを考えると、改善されてきたとはいえ取り寄せ期間の短縮化が大いに望まれる。郵便事情に左右されない FAX や DDS サービス [16] を取り入れることで改善される余地もあるが、まだ、一般化には至っていない。

4 おわりに

海外 ILL 業務は、依頼から始まり料金決済までがほぼ一行程である。入り口とも言うべき主な依頼先を中心に概述した。この他にも、e-mail・FAX や手紙によって様々な資料所蔵機関への依頼を行っているが、ILL システムを通じた定型フォームによる依頼のほうが、充足率が高い。それは、依頼データの「過去ログ」が残り、不都合が発生すると依頼番号等により点検が可能となることにもよる。過去の証拠を充分残せない個々の所蔵館への FAX や手紙での依頼は、残念ながら謝絶や応答無しも少なくない。

学術研究のグローバル化の傾向は、インターネットの普及によって研究者が世界各国の図書館の OPAC 検索や Web 上の情報が取得できるようになり、自分の研究テーマに関わる文献の存在を安易に知ることが出来るようになったことも一因と見られる。それは、当部署来訪者の多くが検索結果の印刷データをもとに「これが欲しいが、国内に無いようだ」と申し出て来ることから受け取れる。この傾向は今後一層増加するであろう。

一方で、国内刊行資料の配送サービスは、図書館の担当窓口を介さず利用者自身で申し込みができるほど進んできている。国立国会図書館や科学技術振興機構のそれぞれの部局に申し込めば自宅に届く方式が確立され、国内の文献複写に限っては ILL 担当部局の存在意義が薄くなりつつある。

今後は、当部署が最近様々な海外の図書館ネットワークに登録したことから、海外機関からの依頼 (ILL 受付) が増すとみられる。その処理に対応する業務マニュアルの一層の整備 [17] が求められよう。また、海外 ILL が一般的に迅速性に欠けることから FAX の利用や DDS サービスの整備も課題となろう。

(※海外 ILL 業務は担当者の対応力が問われる。中央図書館レファレンス係は、その時々の中核的な人材が中心となり引き継いできた。現在の基盤は平田さくら氏が形成した。名前を記すことで貢献を讃えたい。)

注

- [1] 略称 GIF (Global ILL Framework) プロジェクト。当プロジェクトは、国立大学図書館協会 (国際学術コミュニケーション委員会) が NII、国公私立大学図書館協力委員会、米国研究図書館協会、北米日本研究資料調整協議会及び韓国教育学術情報院 (KERIS) 等と協力し進めているプロジェクトでホームページ上 (<http://www.libra.titech.ac.jp/GIF/>) でグローバル ILL に関する様々な情報を掲載している。
- [2] 『相互協力研究分科会報告』9号に①の補遺版を収載しており有用である。私立大学図書館協会東地区研究部相互協力研究分科会は、下記のホームページを持ち、最新情報が更新されている。
(<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/sogokyoryoku/>)
- [3] 依頼は充足しなかった分も含む。これらの数字は本学中央図書館が極端に少ないことではない。年間1,000件に及ぶ海外 ILL 処理を行う卓越した大学がある一方で、栃谷泰文「グローバル ILL/DD フレームワーク:その理念と背景」『大学図書館研究』67号 2003.3 p.5、では「大学図書館の国際 ILL 件数は、…全大学で海外との ILL では、1大学平均で、年間依頼が19.5件、受付は2件で、日本国内との ILL の1%に満たない」という記載があり、学術情報の国際的流通の観点で危惧を抱いている。
- [4] 英国内に Backup Library と呼ぶ20の協力機関を持っている。依頼時にコメント欄に“BACK UP”と記入することで、その機能を請求したことになる。が、Back Up 館を利用した場合はその依頼の成否に関係なく通常料金より ¥1,100 ほど高くなる。この他に、通常料金の扱いだが“LONDON”という記号で別部局へ再依頼を指示される場合がある。多くは19世紀以前に出版の資料で、決められたフォームを使用し再依頼を行う。
- [5] 預託金制度は、あらかじめ一定金額を BLDSC へ預託し、使用毎にサービス利用料金が自動的に引き落としされる方式。残高は BLDSC より月毎に通知される利用明細で確認できる。この仲介は紀伊国屋書店営業部が行う。

- [6] 郵便局が窓口となる国際送金(口座宛)を利用している。ドイツの銀行へは、10万円以下の場合、¥700の送金手数料、5ユーロの仲介手数料が発生する。なお、口座宛では銀行により更に5ユーロ位の口座登記料が発生することがある。
- [7] Staatsbibliothek zu Berlin Preussischer Kulturbesitz(プロイセン文化財団ベルリン国立図書館)は、1992年に、旧東西ドイツの“国立図書館”の役割を担っていた旧東ベルリンのドイツ図書館(Deutsche Staatsbibliothek)と旧西ベルリンのプロイセン文化財団国立図書館(Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz)が統合されて誕生した。1,100万冊の資料を所蔵する。特に subito では扱ってもらえない資料も送ってもらえることがあり、期待を寄せる館の一つである。謝絶されることもままあるが、どの機関に取り寄せ依頼すれば良いという指示を FAX 等で得ることもある。
- [8] NOSP は雑誌・新聞目録で、北欧6ヵ国(フェロー諸島を含む)とバルト3国の約1,000図書館所蔵の約39万タイトルを収録する。
- [9] 紀伊国屋書店の OCLC 資料複写および貸借に伴う送金代行事務は、NII より提供される各月の利用実績データをもとに参加各機関宛に請求書を発行する。換算レートは、利用月(状態が「確認」になったとき)の平均レート。処理頻度は月毎で、手数料は当該月に利用した参加各機関宛の請求書1通あたり、¥1,500(税込 ¥1,575)がかかる。
- [10] グローバル ILL 「日米」のシステム障害の停止の経緯(出所=NII-ILL のホームページ上の記事及び、NII から届いた e-mail から)
- 2005年6月13日 OCLC 側のシステム全体リプレイス
 - 2005年6月14日 OCLC 側の ISO-ILL サーバで障害発生
 - 2005年8月2日 OCLC より、システム再開の連絡
 - 2005年8月3日 日米 ILL/DD の再開
 - 2005年8月9日 データの不整合判明により日米 ILL/DD の再停止
 - 2005年9月20日 OCLC より、テスト検証の依頼
 - 2005年11月16日より運用を再開
- 停止状態の2005年10月25日に、慶應義塾大学三田校舎で行われた国公立大学図書館協力委員会主催のシンポジウムで、筆者がこのことを憂慮する発言をしたが、その後の質疑応答でも会場からの反応は無く、話題にならなかった。
- [11] 白黒複写1枚当たり料金は、日本国内の相殺館どうしても¥10から¥60まで価格差がある(『相互協力便覧』2005年版による)。非相殺館にいたっては、1枚¥100のところもある。このような価格差でグローバル ILL 上での「相殺」では、国際協力にも影響を及ぼすと思われる。
- [12] この事情は、鮑延明著「上海図書館のユニークな構造とサービス」『図書館界』51巻6号2000.3 p.404-409で紹介されている。
- [13] 同機関は、索引誌である『中國社會科學人文科學主要論文索引』を発刊していたが、1996年の5巻4号以降は発刊されていない。組織や活動は継続中と聞く。

- [14] IFLA (国際図書館連盟) で発行し、世界中の図書館間での複写・貸借で通用する金券で、現品はトランプのようなカードをパウチした形状である。Voucher の購入は、当館では IFLA の担当事務局へ e-mail で申し込みを行っている。Voucher は Full Voucher (購入費用 8 ユーロ) と Half Voucher (同 4 ユーロ) の 2 種類がある。当館は IFLA 非加盟館のため手数料が若干高くなる。IFLA Voucher の請求基準は、貸借は 1 件につき 1 Full Voucher、複写は 15 頁までが 1 Full Voucher で 10 頁超過ごとに 1 Half Voucher を請求というのが標準とされているが、図書館により請求枚数は若干異なる。先方から ILL の対価として 1 Full Voucher の請求があったら、当部署がそれを郵送し、その該当購入費用額と郵送費を ILL 希望者に請求する。Voucher は利用館同士で再利用可能で、他機関から送られてきた Voucher を後日別の支払いのために使用することができる。なお、最近、日本図書館協会総務部での販売が開始された。FAX 等で申し込めば、Full Voucher 1 枚 ¥2,000、Half Voucher 1 枚 ¥1,000 で販売する (詳細は『図書館雑誌』Vol.99, No.1: 2005.1, p.10 に掲載)
- [15] International Reply Coupon の略で、国際返信切手券とも呼ぶ。郵便局で、1 枚 ¥150 で購入でき、送付された館では相当金額の郵便切手と交換できる。換金性が無いため、相手館がその支払い方法を扱う場合に限り利用する。最近では IRC の支払い可とする館が目立たない。
- [16] Electronic Document Delivery System & Services (e-DDS) を一般的に DDS と呼ぶ。ILL の複写依頼・受付で適用する。文献コピーをして、電子化したファイルをインターネット送信する方法は、海外では盛んで、subito の主流はこの方式と聞く。郵送より若干安い場合が多いが、届いた資料を申込者に電子ファイルとして渡せずプリントアウト後ファイル廃棄など諸条件があり、当部署では限定的に扱う。日本国内では著作権の公衆送信権の侵害に当たるとして進展しなかったが、学術著作権協会等と大学図書館の検討委員会とのあいだで合意が成立し、文献複製物の送信が徐々に開始されている。受付館の導入には設備投資のほか、特に人員増強などの運用面が課題となろう。
- [17] 海外 ILL 受付については、OCLC に参加し、更に北米との ARL プロジェクトに参加する早稲田大学図書館が先駆的・中心的位置にあり、その対応情報を様々な形で公開している。受付業務のマニュアル的情報は前述の『相互協力研究分科会報告』第 9 号が参考になる。また、高橋晶子「早稲田大学中央図書館の海外 ILL：現状と課題」『大学図書館研究』66 号 2002.12 p.22-32 では、その事情を解説する。